近　畿　税　理　士　会　粉　河　支　部　長　賞

税金と社会保障

和歌山県立橋本高等学校　一年　川野　真緒

私たちの生活は、たくさんの税金によって支えられています。税金というと、大人が働いたお金から取られるものというイメージがあると思います。でも実際には、私たち高校生の生活の中にも税金は深く関わっています。

校舎の建て替えや、冷暖房の設置に使われたりしているのは、その代表的な例だと思います。つまり税金は、将来ではなく「今」の私たちにも役立っているのです。

その中でも特に大切なのが、社会保障に使われる税金だと思います。社会保障とは、病気やけがをしたときに病院で少ないお金で治療を受けられることや、年をとった人が年金をもらって生活できる仕組みのことをいいます。

これらがあることで、安心して生きていける社会が作られています。もし税金や社会保障がなかったら、病気になった人は高いお金を払わなければならず、治療を受けられない人も出てしまうかもしれません。高齢者も生活が難しくなり、家族の負担が大きくなると思います。そう考えると、税金と社会保障は「みんなで支え合うための仕組み」だと感じます。

ただし、未来に目を向けると課題も多いです。日本は少子高齢化が進んでいて、働いて税金を納める若い世代が少なくなる一方で、年金や医療にお金が必要なお年寄りはどんどん増えています。このままでは社会保障の仕組みを保つことが難しくなるかもしれません。そこで、将来のために税金をどのように使うのかを考えることが大切だと思います。

たとえば、若い人が子どもを安心して育てられるように支援したり、病気を予防できる仕組みに力を入れたりすることは、長い目で見れば社会保障費を減らすことにつながるはずです。

また、税金を納める側の意識も大切です。もし「自分が納めたお金が何に使われているか分からない」と感じれば、不満や不安が広がってしまいます。

だからこそ、国や自治体はもっと分かりやすく説明して、私たち若い世代にも伝える工夫をしてほしいです。そうすれば、自分が大人になって税金を納める立場になったときも「誰かの役に立っている」と実感しやすくなると思います。

税金と社会保障は、今を生きる人だけでなく、未来の世代にもつながる大きな仕組みです。これからの社会を守るためには、税金をどう集め、どう使うのかを考え続けなければなりません。

私自身も、大人になったときにただ納めるだけでなく、その意味を理解して社会の一員として行動していきたいです。未来の社会保障が安心して受けられるものであるように、税金の大切さを忘れずに暮らしていきたいと思います。